

# ベーシック・モデル・カリキュラム

全国歯科衛生士教育協議会  
教育問題検討小委員会編

# 「ベーシック・モデル・カリキュラムの作成」

全国歯科衛生士教育協議会  
教育問題検討小委員会 担当 眞木 吉信

## 1. 歯科衛生士教育3年制と大綱化された新しいカリキュラム成立の経緯

21世紀になり日本は本格的な長寿社会を迎え、経済的な豊かさに起因する生活習慣病の増加など疾病構造の変化により、人々は現実的な健康のあり方や生きがいを求めるようになった。このような健康に関する社会的な成熟は、歯・口腔の健康への関心を高め、高度先進医療の追究のみならず、健康の維持・増進を目的とした予防やそのための習慣形成としてのライフスキルに焦点があてられ、これを担当する歯科衛生士の資質の向上と役割への期待が大きくなりつつある。

全国歯科衛生士教育協議会では、昭和58年の制定以来20年近くを経た現行の教授要綱を見直す目的で、平成7年から平成11年にかけて歯科衛生士教育カリキュラムのあり方について数度のアンケート調査を実施してきた。その結果は平成8・9年度厚生科学研究「歯科衛生士のあり方およびその需給バランスに関する研究」（主任：浅井康宏）と平成11・12年度厚生科学研究「今後の歯科衛生士に対する養成方策に関する総合的研究」（主任：可児徳子）として公表した。

その間、平成11年には「歯科衛生士の資質の向上に関する検討会」意見書が提出され、上記の調査と医療他職種の教育年限等を勘案して、歯科衛生士教育は3年制の専門学校か短期大学で行われることが望ましいと報告され、平成16年9月には「歯科衛生士養成所指定規則の一部を改正」し、翌17年4月より歯科衛生士の資質向上を図るため、修業年限を3年以上に延長し、教育の内容の弾力化や適正な専任教員の確保を図ることになった。

特に、大綱化された歯科衛生士養成学校施設の新たなカリキュラムは表1に示したように、基礎・専門基礎・専門および選択必修の各分野に分けられ、時間数から単位数の表記となった。また内容的にも、従来の臨床実習に臨地実習が加えられ、臨床歯科医学には老年歯科医学や障害者歯科学を取り入れることが望ましいとされているが、実際のカリキュラムは各学校が独自で組まなければならないために、全国歯科衛生士教育協議会としては「カリキュラム・ワークショップ」という位置づけで講習会Vを実施してきた。しかし、受講者数は限られているためカリキュラムの作成を含む教育上の問題点は多い。

## 2. ベーシック・カリキュラムとコア・カリキュラムの作成

これまでの指定規則については、具体的な授業内容を提示した「歯科衛生士養成所教授要綱」が作成され、全国歯科衛生士教育協議会の編集による解説と参考資料が出版されていた。しかしながら、現行の指定規則に関しては、4つの分野の大項目ごとの単位数の表記のみで、具体的な教育内容およびその時間数については各学校施設が考えることとなっている。養成校の現場からはモデルとなるカリキュラム案を示して欲しいとの要望が相次いでいるため、本年度は最新歯科衛生士教本（医歯薬出版）を基に、どの歯科衛生士学校養成所でも応用可能な「ベーシック・カリキュラム」の作成を行った。

基本的にはこれまでの「歯科衛生士養成所教授要綱」に則った形としたので、各養成所においては内容を検討し、取捨選択して独自の教育カリキュラムを策定する際の参考にしていただきたい。

なお、来年度からは、本年度に作成した「ベーシック・カリキュラム」をベースに、歯科衛生教育の「コア・カリキュラム」に発展させる努力をしていくつもりである。

### 3.「ベーシック・カリキュラム」の概説

今回の「ベーシック・カリキュラム」作成に当たっては、各担当者に以下の要領で執筆をお願いした。

- ① 科目名：大綱化された科目名の記載
- ② 一般目標：大綱化された科目ごとに記載
- ③ 学習方法：講義・演習・実習の設定
- ④ 教育時期：1～3年の前期・後期の設定
- ⑤ 教育単位と時間：新しい指定規則には単位の記載のみであるが、今回は目安となる時間数も併記

教育項目は大項目・中項目・小項目にわけ、教育時期と時間数は原則として大項目ごとの記載とした。さらに、関連科目との整合性を確認する場合は、備考欄にその旨を記載するようにした。

今回は、来年度からの3年制教育開始を意識して緊急にまとめた「ベーシック・カリキュラム」なので、それぞれの科目および項目の内容については十分な検討ができなかったことを付記しておく。これから取り組む「コア・カリキュラム」作成の中で熟考していきたい。

<表1>

	教育内容	単位数	教育の目標
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	10	「専門基礎分野」及び「専門分野」の基礎となる科目を設定し、併せて、科学的・論理的思考力を育て、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す内容とする。 人間を幅広く理解できる内容とし、人間関係論、カウンセリング論と技法等を含む内容とする。 国際化及び情報化社会に対応しうる能力を育成する。 生命科学等の分野の理解を深める内容を含むことが望ましい。 職務の特性に鑑み、人権の重要性について十分理解させ、人権意識の普及・高揚が図られるような内容を含むことが望ましい。
	小計	10	
専門基礎分野	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能 歯・口腔の構造と機能 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み	15 7	人体並びに歯・口腔の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解し、健康・疾病について、その予防と回復過程に関する知識を習得し、併せて観察力、判断力を培う内容とし、解剖学、生理学、病理学、微生物学、薬理学等を含むものとする。 人々の歯・口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な教育的役割や、地域における関係諸機関等との調整能力を培う内容とし、口腔衛生学、公衆衛生学、衛生行政・社会福祉及び関係法規等を含むものとする。
	小計	22	
専門分野	歯科衛生士概論  臨床歯科医学  歯科予防処置論  歯科保健指導論  歯科診療補助論  臨地実習（臨床実習を含む。）	2 8 8 7 9 20	歯科衛生士の意義、業務の枠組みと理論を理解し、職業倫理を高める態度を養う内容とする。 歯科医療の概要とその診療補助の基礎的理論や基礎的技術を学ぶ内容とする。 高齢者や要介護者、障害者等を対象とした歯科医療における診療補助の能力を養えるような内容とする。 生涯を通じた継続的な口腔保健管理について十分に理解させ、疾患やライフステージ別の予防法や予防システムの構築を学ぶとともに、業務記録の記載法や記録の必要性の理解を深める内容とする。 ライフステージ毎に多様な生活環境・健康状態にある個人および集団に対して、専門的な立場から歯科保健指導・教育の支援ができる能力を養えるような内容とする。 チーム医療の一員として歯科診療補助業務の基礎的理論や基礎的技術を習得する内容とする。 知識・技術を歯科臨床や地域保健等の実践の場面に適用し、理論と実践を結びつけて理解できる能力を養う内容とする。
	小計	54	
選択必修分野		7	各養成所において独自に編成し、職務の特性に鑑みた内容とする。
	合計	93	

## 歯科衛生学ベーシック・モデル・カリキュラム目次

### [専門基礎科目]

1. 人体と口腔の構造と機能（解剖学及び生理学）	升井 一郎	1
一般目標：人体の構造と生理の概要、並びに口腔とその周囲組織の構造、生理、機能に関する知識を習得する。		
2. 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1（病理学）	山根 暉	11
一般目標：全身並びに歯・口腔領域の疾病やその原因また治癒促進のための方法について体系的に学ぶ。		
3. 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2（微生物学）		
一般目標：全身並びに歯・口腔領域の疾病やその原因また治癒促進のための方法について体系的に学ぶ。		
4. 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3（薬理学）		
一般目標：全身並びに歯・口腔領域の疾病やその原因また治癒促進のための方法について体系的に学ぶ。		
5. 疾病の成り立ち及び回復過程の促進4 栄養と代謝(生化学・栄養学)	眞木 吉信	19
一般目標：全身並びに歯・口腔領域の疾病やその原因また治癒促進のための方法について体系的に学ぶ。		
6. 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	眞木 吉信	26
一般目標：人々の歯・口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な教育的役割や、地域における関係諸機関等との調整能力を高める態度を養う。		

### [専門科目]

1. 歯科衛生士概論	遠藤 圭子	39
一般目標：歯科保健医療の概念を会得し自立して歯科衛生業務を遂行するために、その業務内容、倫理、保健・医療・福祉の連携を理解する。		
2. 臨床歯科医学	福島 正義・升井一郎	40
一般目標：歯科医療における診療補助の能力を養うために歯科医療の概要と基礎的な理論と技術を理解する。		
3. 歯科予防処置論	高坂 利美	53
一般目標：人々の歯・口腔の健康に関する基礎を学び健康な生活を支援するために、プロフェッショナルケアの知識・技術・態度を習得する。		
4. 歯科診療補助論	合場千佳子	57
一般目標：さまざまなライフステージにおける高度歯科医療に対応するために、専門性の高い歯科診療補助業務の基礎的理論と技能、態度を理解する。		
5. 歯科保健指導論	藤原 愛子	61
一般目標：健康支援として、人々の歯・口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な知識・技術・態度を習得する。		
6. 臨地実習（臨床実習含む）	松田 裕子	66
一般目標：既得の知識・技能を実践と結びつけながら業務の理解を深め、実践能力を養うために、歯科臨床、地域歯科保健等の場で実習する。		

科目名: 人体と口腔の構造と機能(解剖学及び生理学) (大綱化した科目名を記載)

専門基礎1.

一般目標: 人体の構造と生理の概要、ならびに口腔とその周囲組織の構造、生理、機能に関する知識を習得する。

学習方法: **講義**・演習・実習

教育時期: 1年前期

教育単位と時間: 9 単位・270 時間

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
I 人体の構造と機能 (総論)	人体の外形と区分  体の方向用語  人体の構成  生命現象とはなにか  ホメオスタシス (生体の恒常性)  バイタルサイン	体幹  顔の区分  体肢	1年前期	1時間  1時間  2時間  2時間  1時間  1時間	
II 人体の組織と発生	細胞  組織  発生	細胞の構造と基本的機能  組織の種類とその構成  上皮組織・支持組織・筋組織  神経組織・皮膚と粘膜  染色体  受精と着床  胚葉の形成  胎児の成長と発育		2時間  2時間  2時間	

III 人体の構造と機能（各論）	顔面と口腔の発生	鰓弓の形成 顔面と口唇の形成 口蓋と鼻腔の形成 舌と唾液腺の形成		2時間	
	骨の構造 骨の発生と成長 骨の形態と結合	膜内骨化、軟骨内骨化 頭蓋骨 体幹骨 上肢骨・下肢骨		2時間 2時間 8時間	
	筋の構造と機能 身体各部の筋	骨格筋、心筋、平滑筋 筋の起始と停止 頭頸部、背部、胸部、腹部、上肢、下肢		2時間 2時間 8時間	
	筋の収縮と運動	反射と随意運動 姿勢の調節 筋疲労とストレッチ		2時間 2時間 2時間	
	消化器の構成	口腔・咽頭・食道・胃・腸・ 肝臓・脾臓 胃・小腸・大腸の機能		6時間 2時間	

	<p>循環器の構成（総論）</p> <p>血液の組成 血液の働き 止血機能 血液型と輸血</p> <p>血管の構造と機能</p> <p>心臓の構造</p> <p>神経組織と機能</p> <p>呼吸器の構成 呼吸運動と換気のしくみ</p>	<p>赤血球、白血球、血小板、血漿 血液凝固、出血傾向</p> <p>動脈系 静脈系 リンパ系 興奮伝導系 心臓の活動電位と心電図</p> <p>末梢神経、中枢神経 脳脊髄膜 脳の血管 自律神経系 反射経路 求心性伝導路 遠心性伝導路</p> <p>肺気量と換気量 肺胞及び細胞におけるガス交換 血液中の酸素と二酸化炭素の運搬</p>	<p>1時間 3時間</p> <p>10時間</p> <p>4時間</p> <p>10時間</p> <p>8時間</p>	
--	--	---	--	--

	感覚	<p>呼吸の調節</p> <p>感覚の基本的性質</p> <p>体性・内臓感覚の受容機構</p> <p>痛覚の受容機構</p> <p>特殊感覚器の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視覚器</li> <li>聴覚器</li> <li>平衡覚器</li> <li>臭覚器</li> <li>味覚器</li> </ul>	8 時間	
	排泄	<p>排便</p> <p>皮膚からの排泄</p> <p>排尿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泌尿器</li> <li>尿の性質</li> <li>腎臓での尿の生成</li> <li>尿量の調節</li> <li>排尿反射</li> </ul>	6 時間	
	体温	<p>体熱の発生</p> <p>体熱の放散</p> <p>体温の調整</p> <p>体温の変動</p>	4 時間	

	<p>内分泌器官とホルモン 内分泌器官の構造と機能</p> <p>生殖</p>	<p>下垂体 甲状腺と上皮小体 胰臓 性腺 副腎 その他のホルモン 歯とホルモン</p> <p>生殖器 男性生殖器 女性生殖器 性周期 卵巣周期と排卵 月経周期 基礎体温 性周期関連ホルモン 受精と妊娠 分娩と乳汁分泌 更年期</p>		6時間	
--	---	---	--	-----	--

IV 口腔の構造と機能	口腔の構造（概説）	口腔前庭・固有口腔 歯・歯周組織 小帯 舌・口底 口峠・咽頭・喉頭 口蓋 頬粘膜	1年前期～後期	2時間	
	口腔の機能（概説）	捕食・咀嚼・嚥下、味覚、呼吸		2時間	
	口腔と顔面を構成する骨	頭蓋骨 上顎骨 下顎骨 顎関節 舌骨 口蓋骨		12時間	
	顔面・口腔の筋とその作用	顔面各部の名称 表情筋 咀嚼筋 咬筋、側頭筋、内側翼突筋、 外側翼突筋 舌筋 舌骨上筋群・舌骨下筋群 頸部の筋		12時間	

	顎関節の構造と機能	骨の構造 関節円板 関節包・韌帯 顎関節の機能（下顎運動）	4 時間	
	口腔付近の脈管	動脈系 総頸動脈・外頸動脈 内頸動脈 頸動脈、顔面動脈、舌動脈 静脈系 リンパ系 顎下リンパ節、オトガイ下リ ンパ節、扁桃、ワルダイエルの 咽頭輪	8 時間	
	口腔に分布する神経	脳神経 三叉神経・顔面神経 舌咽神経・迷走神経 舌下神経 脊髄神経 自律神経 交感神経・副交感神経	8 時間	
	唾液腺	三大唾液腺（耳下腺、顎下腺、 舌下腺）	8 時間	

		小唾液腺 唾液の分泌機構 唾液の成分と機能 唾液とう蝕症 唾液と歯周疾患 唾液と全身疾患		
	味覚	味蕾 味覚障害と味盲	2 時間	
	下顎位	中心位、下顎安静位、中心咬合位	2 時間	
	下顎の運動	開口筋・閉口筋 顎運動に働く神経系 下顎限界運動 閉口反射と開口反射	4 時間	
	摂食と嚥下	咽頭の構造 喉頭の構造 摂食嚥下のステージ 食物認知 咀嚼 咀嚼の意義 食塊の形成 咽頭期 食道期	8 時間	

V 歯および歯周組織の構造と機能		発声	嘔吐 発声のメカニズム 音声の生成 言語音の形成 口蓋裂と発音 歯の欠損と発音 義歯と発音 不正咬合と発音	4 時間	
		歯の構造（総論）	エナメル質 象牙質・歯髄複合体 歯の硬さ、有機質、無機質 歯式	8 時間	
		歯の物理・化学的性質			
		歯の種類と名称			
		歯の特徴	ミュールライターの3徴候	2 時間	
		永久歯	永久歯の特徴		
		乳歯	乳歯の特徴		
		歯列と咬合			
		歯・歯周組織の発生	歯の発生 歯周組織の発生	4 時間	
		エナメル質	エナメル質の構造と性状	4 時間	
		象牙質・歯髄複合体	象牙質・歯髄複合体の構造 象牙質・歯髄複合体の生理と加	4 時間	

	歯周組織 セメント質 歯根膜 歯槽（骨） 歯肉 歯周組織の生理	齢変化 セメント質の構造と性状 歯根膜の構造と機能 歯槽壁の構造 歯肉の構造 歯肉の加齢変化		14 時間	
VII 歯と口腔感覚	口腔粘膜 歯の萌出	被覆粘膜 咀嚼粘膜 特殊粘膜 萌出時期 萌出機序		2 時間	
	歯の感覺 口腔粘膜の感覺	圧覚（触覚） 位置感覺 歯髄感覺 感覺受容器		4 時間	
VII 実習	歯のスケッチ（3倍大） 歯型彫刻（実物大）			30 時間	

備考：1⇒この項は他の科目との関連について、適宜提示することが望ましい。

科目名：疾病の成り立ち及び回復過程の促進（大綱化した科目名を記載）

専門基礎2～4.

一般目標：全身並びに歯・口腔領域の疾病やその原因また治癒促進のための方法について体系的に学ぶ。

学習方法：**講義**・演習・実習

教育時期：1年後期

教育単位と時間：5単位・75時間

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
病気の成り立ち	病因論 遺伝性疾患と奇形 循環障害 代謝障害（退行性変性） 増殖と修復（進行性病変） 炎症と免疫	内因と外因 循環血液量の異常 閉塞性の循環障害 変性 萎縮 壞死とアポトーシス 肥大と増生（過形成） 再生と化生 肉芽組織と器質化 創傷の治癒と異物の処理 移植 炎症の症状・病因・組織変化 炎症の分類 炎症の経過と転帰 炎症の各型	1年後期	12時間	

口腔の疾患	腫瘍	疾病と免疫 自己免疫疾患と 免疫不全症候群 アレルギー 腫瘍の病態と疫学 腫瘍の病因・発生機序 腫瘍の組織と形態 腫瘍の分類 腫瘍の各型	18 時間	⇒微生物 ⇒口腔衛生 ⇒口衛・保存 ⇒保存 ⇒保存
		ペリクル プラーグ 歯石 着色と変色 病因と疫学・発生機序 う蝕の分類と各型		
		歯髓炎の病因・発生機序 歯髓炎の分類と各型 歯髓の石灰化 象牙質知覚過敏症		
		根尖性歯周炎の 病因と発生機序 根尖性歯周炎の分類と各型		

疾病と微生物	辺縁部歯周組織の病態	歯性上顎洞炎 セメント質の増生 歯肉炎と辺縁性歯周炎の 病因と発生機序 歯周疾患の分類と各型 (咬合性外傷を含む) 歯周疾患と全身疾患 口腔粘膜疾患 口腔癌 (前癌病変を含む)	12 時間	♦歯周  ♦口腔外科  ♦口腔外科 ♦口腔外科 ♦口腔外科 ♦口腔外科 ♦口腔外科 ♦老年歯科 ♦口腔外科 ♦口腔外科 ♦口腔外科 ♦保存 ♦保存 ♦歯科矯正
	感染の成立と発症	感染症とは 感染の種類 感染経路		

免疫	微生物の病原性 細菌	宿主-寄生体相互作用 分類 形態と構造 代謝と増殖法 病原性因子 細菌感染症		
	ウイルス	構造と増殖法 ウイルス感染症		
	その他の病原微生物	マイコプラズマと その感染症 スピロヘータとその感染症 リケッチャとその感染症 クラミジアとその感染症 真菌とその感染症 原虫とその感染症		9時間
	宿主防衛機構 免疫機構	非特異的防御機構 特異的防御機構 免疫関連臓器と 免疫担当細胞 サイトカイン 免疫機構の発現と調節 免疫の種類 ワクチン		

口腔の微生物	体液性免疫	抗原と抗体 抗原抗体反応 補体	9 時間	△病理
	細胞性免疫	細胞性免疫の種類 細胞障害の機序		
	アレルギー	I型（アナフィラキシー型） II型（細胞障害型） III型（免疫複合型） IV型（遅延型）		
	口腔細菌叢	微生物と口腔環境 成立と遷移 部位別細菌叢		
	バイオフィルムとしての plaque	形成機序 バイオフィルムと バイオフィルム感染症 う蝕		
	口腔感染症	歯髄疾患・根尖性歯周炎 歯周疾患 その他の口腔感染症		
	化学療法	化学療法薬		
	滅菌・消毒	定義と方法		
	培養・観察法	培養法と顕微鏡観察法		
疾病の回復を促進する薬			12 時間	詳細は臨床 科目と 3 科

	<p>薬物の作用（薬理作用）</p> <p>からだにおける薬物の働き</p> <p>薬物の分類</p> <p>調剤</p> <p>中枢神経系と薬</p> <p>末梢神経と薬</p>	<p>薬物とは</p> <p>薬物の作用機序</p> <p>薬物の用量と作用</p> <p>生体の感受性</p> <p>薬物の併用</p> <p>薬物の連用</p> <p>薬物の副作用・有害作用</p> <p>薬物の適用方法</p> <p>薬物の動態</p> <p>血中濃度の推移</p> <p>療法による分類</p> <p>法律による分類</p> <p>剤形による分類</p> <p>処方箋</p> <p>配合変化</p> <p>保存方法</p> <p>全身麻酔薬</p> <p>アルコール類</p> <p>催眠薬</p> <p>向精神薬</p> <p>抗てんかん薬（抗痙攣薬）</p> <p>パーキンソン病治療薬</p> <p>鎮痛薬</p> <p>中枢神経興奮薬</p> <p>局所麻酔薬</p>		
--	--	---	--	--

歯科疾患の回復と薬	循環・呼吸と薬	自律神経作用薬 循環系に作用する薬物 呼吸系に作用する薬		
	血液と薬	止血薬 抗血栓薬 抗貧血薬		
	炎症と薬	ステロイド性抗炎症薬 非ステロイド性抗炎症薬 解熱鎮痛薬 消炎酵素薬		
	感染症と薬	抗感染症薬 消毒薬		
	ビタミン・ホルモンと薬	ビタミン ホルモン 代謝性疾患治療薬		
	悪性腫瘍と薬	抗悪性腫瘍薬		
	免疫と薬	免疫増強剤と免疫抑制剤 抗アレルギー薬 ワクチン		
	漢方医学と薬	漢方薬とは	3時間	⇨口衛・予処 ・保存 ⇨歯周
	歯・歯髄疾患と薬	う蝕の予防に用いる薬 歯・歯髄疾患に用いる薬		
	歯周疾患と薬	急性炎症の際に用いる薬 局所に投与する薬		

	<p>頸・口腔粘膜疾患と薬</p> <p>服薬指導</p>	<p>経口投与する薬 口臭治療に用いる薬 炎症性疾患に用いる薬 口腔粘膜疾患に用いる薬 頸関節症に用いる薬 口腔乾燥症に用いる薬 神経疾患に用いる薬 一般的な服薬指導 対象者別の服薬指導</p>		<p>⇨口腔外科</p> <p>⇨診補</p>
--	-------------------------------	---	--	-------------------------

科目名 : 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 栄養と代謝 (大綱化した科目名を記載)

専門基礎5.

一般目標：全身並びに歯・口腔領域の疾病やその原因また治癒促進のための方法について体系的に学ぶ

学習方法：**講義**・演習・実習

教育時期：1年後期

教育単位と時間：1単位・30時間

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
生体の構成要素	細胞の役割 生体における水 生体構成成分と栄養素	1)細胞の大きさと構造 2)細胞膜の受容体 3)細胞の分化 1)生体中の水の分布 2)水の性質 3)水の解離と水素イオン濃度 4)酸と塩基 5)緩衝液 1)糖質の構造と種類 ・单糖、二糖、オリゴ糖、多糖、アミノ糖 2)脂質の構造と種類 ・中性脂肪(トリアシルグリセロール)、リン脂質と生体膜、コレステロール 3)タンパク質の構造と種類 ・アミノ酸、ペプチド結合、ペプチド、タンパク質	1年後期	2時間	

備考：1⇒この項は他の科目との関連について、適宜提示することが望ましい。

生体における化学反応  糖質と脂質の代謝：主要なエネルギー基質	消化と吸収	4)ビタミン ・脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン 5)無機質(ミネラル) 1)糖質の消化と吸收 2)脂質の消化と吸收 3)タンパク質の消化と吸收 1)酵素の役割 2)エネルギー産生：アデノシン 5'-三リン酸(ATP)	1年後期	1時間	
	代謝				
	エネルギー代謝の全体像		1年後期	2時間	
	糖質の代謝とエネルギーの生成	1)解糖 2)クエン酸回路 3)電子伝達系 4) 糖質の代謝によって得られるエネルギー量 5) グリコーゲンの合成			
タンパク質の代謝：多様な機能を持つ生体分子	タンパク質の加水分解 アミノ酸の分類とエネルギーの供給	1)脱アミノ代謝 2)アミノ基の代謝 3)脱炭酸代謝	1年後期	2時間	

	タンパク質の合成	1)核酸 2)遺伝子 3)タンパク質の合成			
生体における恒常性の維持	血液と尿	1)血糖値 2)ヘモグロビンと酸素の運搬 3)pH の維持	1 年後期	2 時間	
	ホルモンと神経				
歯と歯周組織	歯と歯周組織	1)結合組織の組成と合成 2)線維上タンパク質—コラーゲンとエラスチン 3)プロテオグリカン 4)接着性タンパク質 5)細胞外マトリックスの分解	1 年後期	1 時間	
	結合組織				
	歯	1) 歯の組成 2)歯の無機成分 ・ヒドロキシアパタイト、その他のリン酸カルシウム、エナメル質・象牙質・骨の違い 3)歯の有機成分			

硬組織の生化学	血清中のカルシウムとリン酸 石灰化のしくみ 骨の生成と吸収 歯の脱灰化と再石灰化	1)基質小胞によるコラーゲン性石灰化 2)歯と骨の石灰化の特徴 1)副甲状腺ホルモン(PTH) 2)カルシトニン(CT) 3)ビタミンD 1)歯の脱灰とキレート作用	1年後期	2時間	
唾液の生化学	唾液の組成と機能	1)無機質 2)有機質 3)低分子量成分	1年後期	1時間	
デンタルプラークの生化学	デンタルプラークの生物活性 多因子性疾患としての齲蝕 齲蝕予防の生化学 デンタルプラークと口臭発症機構	1)デンタルプラークの種類 2)デンタルプラークの形成 3)糖とデンタルプラークの酸產生能 1)糖 2)デンタルプラーク 3)歯 4)唾液 5)食生活 1)フッ化物 2)代用甘味料	1年後期	2時間	

栄養の基礎知識	デンタルプラークと歯周 疾患発生機構	1)細菌活性 2)LPS 3)生体防御機能と炎症反応	1年後期	2時間	
	食生活と栄養 栄養素の消化・吸収	1)日本人の栄養摂取状況 1)消化作用の種類 2)消化作用について 3)栄養素の消化 4)吸収作用 5)栄養素の吸収 6)栄養素の役割			
食事摂取基準	エネルギー所要量	1)食物のエネルギーについて 2)エネルギー所要量の基礎 3)個人のエネルギー所要量の求め方 4)脂肪エネルギー比率について 5)付加運動によるエネルギー消費量増加 1)基礎代謝量 2)基礎代謝に影響する因子	1年後期	2時間	
	基礎代謝 日本人の食事摂取基準				

栄養素の働き	脂質の栄養的意味	1)脂質の働き 2)脂質		8 時間	
	ビタミンの種類	1)ビタミンの働きと欠乏症・過剰症			
	ビタミンの栄養的意味	2)脂溶性ビタミン 3)水溶性ビタミン ビタミンの必要量と給源			
	無機質の種類	1)無機質の一般的な働き			
	無機質の作用と欠乏症	2)個々の無機質の作用と欠乏症			
	水の栄養的意味	1)繊維質の一般的な働き			
	繊維質の栄養的意味				
食生活と健康	国民の健康と栄養の現状	1)食生活の変遷と疾病構造の変化 2)国民栄養の現状と課題	1 年後期	2 時間	
	望ましい食生活	1)国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み 2)食事環境 3)食事計画			
	ライフステージ別の栄養と調理	1)成長期における栄養と調理の特性 2)成人期における栄養と調理の特性 3)高齢期における栄養と調理の特性			

食べ物と健康	食品の成分と分類  食べ物の物性	1)食品成分表 2)食事計画に用いる食品分類 1)食べ物のおいしさ 2)食べ物の特性・テクスチャー ・調理操作による栄養機能性の変化など	1年後期	1時間	
--------	------------------------	--	------	-----	--

科目名：歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み（大綱化した科目名を記載）

専門基礎6.

一般目標：人々の歯・口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な教育的役割や、地域における関係諸機関等との調整能力を高める態度を養う。

学習方法：**講義**・演習・実習

教育時期：1年前期～2年前期

教育単位と時間：7 単位・210 時間

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
健康の社会的意義と推進方策	1. 健康の概念 2. 予防医学の概念	1) 健康の定義 2) 生活習慣と健康 3) プライマリヘルスケア 4) ヘルスプロモーション 1) 疾患の要因と自然的経過 2) 予防の段階 3) 予防医学の意義 4) 予防法の適用	1年前期	4時間	
健康推進と環境	1. 疫学	1) 疫学とは 2) 疾病や異常(健康障害)の発生要因 3) 疾病の発生、流行状態を表す指標 4) 疫学の方法 5) 記述疫学 6) 分析疫学 7) 介入研究	1年前期	36時間	

備考：1⇒この項は他の科目との関連について、適宜提示することが望ましい。

	<p>2. 人口</p> <p>3. 人口動態統計</p> <p>4. 生命表</p> <p>5. 環境の概念</p> <p>6. 空気と水・健康</p> <p>7. 放射線と健康</p> <p>8. 住居・衣服と健康</p> <p>9. 地球環境の変化と健康への影響</p>	<p>1) 世界の人口</p> <p>2) わが国の人ロ</p> <p>1) 出生</p> <p>2) 死亡・死産</p> <p>3) 婚姻と離婚</p> <p>1) 生命表の概念</p> <p>2) 平均余命と平均寿命</p> <p>1) 外部環境</p> <p>2) 内部環境</p> <p>3) 主体-環境系</p> <p>4) 量・影響関係と量・反応関係</p> <p>1) 空気</p> <p>2) 温熱環境</p> <p>3) 水</p> <p>1) 非電離放射線</p> <p>2) 電離放射線(放射線)</p> <p>1) 住居</p> <p>2) 衣服</p> <p>1) 地球温暖化</p> <p>2) 酸性雨</p> <p>3) オゾン層破壊</p> <p>4) 砂漠化</p> <p>5) 森林の減少</p>		
--	--	--	--	--

	<p>10. 公害と健康への影響</p> <p>1) 大気の汚染 2) 水の汚染 3) 土壤の汚染 4) 騒音 5) 悪臭</p> <p>11. 廃棄物処理</p> <p>1) 一般廃棄物 2) 産業廃棄物 3) 感染性廃棄物</p> <p>12. 感染症の成り立ち</p> <p>1) 感染と発病 2) 感染成立の三要因 3) 感染症の流行</p> <p>13. 感染症の予防</p> <p>1) 感染症予防の基本概念 2) 感染症対策上の問題点 3) わが国における感染症対策</p> <p>14. 主な感染症の動向</p> <p>1) 一類感染症 2) 二類感染症 3) 三類感染症 4) 四類感染症 5) 五類感染症</p> <p>15. 食品保健</p> <p>1) 食中毒の疫学 2) 食中毒の分類 3) 食品の安全性確保</p> <p>16. 栄養と健康</p> <p>1) 日本人の食事摂取基準</p>		
--	---	--	--

歯・口腔の健康と予防		2) 国民栄養の現状と問題点 3) 健康づくりのための食生活指針と「食育」の推進	1年前期	50時間	
		1) 歯・口腔の構造			
		2) 歯・口腔の発生と成長・発育			
		3) 歯・口腔の機能			
		4) 口腔の健康と全身の健康			
		1) ペリクル 2) プラーク 3) 齒石 4) 舌苔 5) 外来性色素沈着物			
		1) 自然的清掃法 2) 人工的清掃法 3) 手術的清掃法 4) 化学的清掃法			
		1) 歯面清掃法 2) 歯間清掃法 3) 齒垢顯示			
		1) 手用歯ブラシ 2) 電動歯ブラシ			

	<p>6. 歯磨剤と洗口剤</p> <p>7. 齧歎の疫学</p> <p>8. 歯周疾患の疫学</p> <p>9. その他の疫学</p> <p>10. 齧歎発病のメカニズム</p> <p>11. 齧歎の発病要因</p> <p>12. 齧歎活動性</p> <p>13. 齧歎の予防方法</p> <p>14. フッ化物による齧歎予防</p> <p>15. フッ化物の一般性状</p> <p>16. 人間生態系におけるフッ化物</p>	<p>3) 補助的清掃用具</p> <p>4) 歯ブラシと歯磨剤の併用</p> <p>1) 歯磨剤の種類と組成</p> <p>2) 洗口剤の種類と組成</p> <p>1) 齧歎の疫学的特性</p> <p>2) わが国における齧歎の有病状況</p> <p>1) 歯周疾患の疫学的特性</p> <p>2) わが国における歯周疾患の状況</p> <p>1) 不正咬合の疫学</p> <p>2) 顎関節症の疫学</p> <p>3) 口腔癌の疫学</p> <p>4) 口腔粘膜疾患の疫学</p> <p>1) 齧歎病因論の変遷</p> <p>2) 現在の齧歎病因論</p> <p>1) 齧歎発病に関わる要因</p> <p>1) 齧歎活動性試験</p> <p>2) リスク分類の特徴</p> <p>1) フッ化物の一般性状</p> <p>2) フッ化物の用語</p>		
--	--	--	--	--

	<p>17. フッ化物摂取量とその基準</p> <p>18. フッ素の代謝</p> <p>19. フッ化物の毒性</p> <p>20. フッ化物応用による齲蝕予防方法</p> <p>21. フッ化物の齲蝕予防メカニズム</p> <p>22. ライフステージに応じたフッ化物応用法</p> <p>23. 歯周疾患の症状と分類</p>	<p>1) 日本人のフッ化物摂取量</p> <p>2) フッ化物摂取量の基準</p> <p>1) 吸収</p> <p>2) 血液中のフッ素</p> <p>3) 沈着</p> <p>4) 排泄</p> <p>1) 急性毒性</p> <p>2) 慢性毒性</p> <p>1) フッ化物歯面塗布</p> <p>2) フッ化物洗口</p> <p>3) フッ化物配合歯磨剤</p> <p>4) 水道水フッ化物添加</p> <p>5) 食品へのフッ化物添加</p> <p>6) フッ化物錠剤・液剤</p> <p>1) 歯周組織の構造と炎症の広がり</p> <p>2) 歯周疾患の分類</p>		
--	---	---	--	--

公衆衛生学・口腔衛生学分野	24. 歯周疾患の発症機序  25. 歯周疾患の全身に与える影響  26. 歯周疾患の予防手段と処置  27. その他の疾患・異常の予防	1) 細菌因子 2) 歯肉炎から歯周炎への移行 3) 歯周疾患のリスクファクター  1) 歯周疾患の予防段階 2) 付着細菌の除去 3) プラーク蓄積因子の除去 4) 口腔の環境因子の改善  1) 口内炎 2) 口腔癌 3) 不正咬合 4) 頸関節症 5) 歯の形成不全 6) 口臭症 7) 口腔乾燥症	1年後期	50時間
	1. 地域社会と地域保健の概念  2. 地域保健の組織	1) 地域社会と健康 2) 地域保健の概念  1) 市町村 2) 都道府県 3) 国 4) 保健所 5) 市町村保健センター 6) 地域歯科保健に関する組織 7) 地域保健の推進に関わる多様な組織		

	<p>3. 地域保健の新たな概念</p> <p>4. 地域保健活動の進め方</p> <p>5. 健康づくり対策と地域 歯科保健</p> <p>6. 母子保健の意義および 概要</p> <p>7. 母子保健</p> <p>8. 母子歯科保健</p> <p>9. 学校保健の意義および 概要</p> <p>10. 学校保健の活動と組織</p>	<p>1) ヘルスプロモーション</p> <p>2) ノーマライゼーションと生活機能</p> <p>1) 現状把握</p> <p>2) 問題の分析、活動項目の決定</p> <p>3) 活動計画と実施</p> <p>4) 活動の評価</p> <p>5) 具体的アプローチ方法</p> <p>1) 健康づくり対策の変遷</p> <p>2) 地域歯科保健の変遷と 8020 運動</p> <p>3) 健康日本 21</p> <p>4) 健康増進法</p> <p>1) 母子保健の意義</p> <p>2) 母子保健の概要</p> <p>1) 母性保健</p> <p>2) 小児保健</p> <p>1) 妊産婦の歯科保健</p> <p>2) 乳幼児の歯科保健</p> <p>1) 学校保健の意義と特徴</p> <p>2) 新しい健康問題への対応</p> <p>3) 学校における歯科保健問題</p> <p>1) 学校保健の行政組織と関係法規</p> <p>2) 学校保健職員と役割</p> <p>3) 学校保健の 3 領域</p>		
--	---	--	--	--

	<p>11. 学校歯科保健</p> <p>12 成人・老人保健の意義</p> <p>13. 成人・老人保健の組織と関係法規</p> <p>14. 介護保険法</p> <p>15. 高齢者医療法</p> <p>16. 成人・老人保健活動</p> <p>17. 要介護高齢者対策と介護予防事業</p> <p>18. 職域保健</p> <p>19. 職業性疾病</p>	<p>1) 学校歯科保健教育</p> <p>2) 学校歯科健康診断</p> <p>3) 歯科衛生士と学校歯科保健活動</p> <p>1) 加齢と健康</p> <p>2) 成人や高齢者の健康確保と口腔保健</p> <p>1) 成人・老人保健と衛生行政組織</p> <p>2) 成人・老人保健福祉の関連制度</p> <p>1) 保健事業の推進</p> <p>2) 老人保健福祉計画とゴールドプラン 21</p> <p>3) その他の健康づくり対策</p> <p>1) 介護サービス</p> <p>2) 介護予防事業</p> <p>3) 要介護高齢者に対する歯科保健医療</p> <p>1) 産業保健の歩み</p> <p>2) 産業保健の目的</p> <p>3) 産業保健の特徴</p> <p>4) 労働基準行政の組織</p> <p>5) 産業保健に関する法規</p> <p>1) 職業性疾病とは</p> <p>2) 職業性疾病の発生状況</p> <p>3) 職業性歯科疾患</p>		
--	---	--	--	--

	<p>20. 産業保健管理</p> <p>21. 産業保健活動</p> <p>22. 精神保健とは</p> <p>23. 精神衛生から精神保健へ</p> <p>24. わが国の精神保健のありみ</p> <p>25. 精神保健・医療・福祉</p> <p>26. 精神障害者の歯科保健</p> <p>27. 開発途上国における健康問題</p>	<p>1) 安全衛生管理体制</p> <p>2) 衛生委員会</p> <p>3) 産業医、産業歯科医</p> <p>4) 総括安全衛生管理者、衛生管理者</p> <p>5) 労働衛生コンサルタント</p> <p>1) 産業保健対策</p> <p>2) 健康診断および歯科健康診断</p> <p>3) 健康診断の事後措置</p> <p>4) 健康保持増進対策</p> <p>5) 職域での歯科保健</p> <p>1) 地域における精神保健</p> <p>2) 精神障害者の医療</p> <p>3) 精神障害者福祉および社会復帰対策</p> <p>4) 新障害者プラン</p> <p>5) 国民の心の健康づくり</p>		
--	---	---	--	--

	<p>27. 開発途上国における健康問題</p> <p>28. 国際化に伴うわが国の保健医療問題</p> <p>29. 国際協力</p>	<p>1) 國際協力の仕組み</p> <p>2) 國際協力の実施機関</p>		
医療と社会のしくみ	<p>1. 医療と社会環境</p> <p>2. 保健福祉制度</p> <p>3. 歯科衛生士と法律</p>	<p>1) 現代社会と医療</p> <p>2) 医療の動向</p> <p>3) 歯科医療</p> <p>4) 医療経済</p> <p>5) 歯科医療機関の現況</p> <p>6) 歯科衛生士・歯科医師・歯科技工士の現況</p> <p>7) 国家統計の概要</p> <p>1) 保健福祉の概要</p> <p>2) 保健福祉制度</p> <p>1) 法制概論</p> <p>2) 歯科医師法</p> <p>3) 歯科衛生士法</p> <p>4) 歯科技工士法</p> <p>5) その他の医療関係者に関する法律</p> <p>6) 医療法</p> <p>7) 薬事関係法</p> <p>8) 地域保健関係法</p>	2年前期	35時間

保健情報と統計	4. 社会保障と社会福祉	1) 社会保障の定義 2) 社会保障の内容 3) 社会保障行政機構の概要 4) 現行の社会保険 5) 社会福祉行政 6) 公的扶助 7) 社会福祉の実際			
	5. 医療保険と介護保険 6. 患者の権利と医療の責任	1) 社会保険の沿革 2) 医療保険の概要 3) 医療保険の仕組み 4) 医療保険の実際 1) 患者の権利擁護 2) 延命治療と尊厳死 3) インフォームド・コンセント 4) セカンド・オピニオン 5) EBM	2年前期	35時間	

	<p>3) 歯科保健調査 4) 歯科保健統計</p>	<p>1) 歯科保健統計の意義 2) 歯科保健統計の用語 3) 歯科保健統計の分析 4) 実例</p>			
--	--------------------------------	---	--	--	--

**専門科目1.****科目名：歯科衛生士概論**

歯科保健医療の概念を会得し、自立して歯科衛生業務を遂行するために、その業務内容、倫理、チーム医療、保健・医療・福祉の連携を理解する。

学習方法：**講義**・演習・実習

教育時期：1年前期

教育単位と時間：1単位・30時間

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
歯科衛生士の業務	歯科衛生とは 歯科衛生士の基本的態度  対象とする人びとの対応  論理的思考 対人関係 安全管理体制	予防と保健指導の意義 専門職 問題発見・問題解決 対象とする人びとの理解（患者、住民、来談者） 自己決定権 インフォームド・コンセント 歯科衛生過程 コミュニケーション能力 安全性、危機管理 歯科医療現場の事故の特異性 リスク管理	1年・前期	30	
歯科衛生士の倫理	歯科衛生倫理 歯科衛生士の責務	歯科衛生倫理 権利と義務 法的責任 医の倫理			
保健、医療、福祉の連携	歯科保健医療の現状と課題 歯科医療に携わる職種 チーム医療・コデンタルスタッフ	歯科保健医療の現状、課題 医療チーム・メンバーの種類と業務 保健・医療・福祉職 連携のあり方			
参考	組織活動  歯科衛生士略史  諸外国の歯科衛生士	専門職能団体の種類 組織のあり方 構成員の活動の仕方  歯科衛生士の誕生 役割・教育制度の変遷 社会的ニーズの変化  アメリカ、スウェーデン、オランダ、韓国などの歯科衛生士の現状			

科目名: 臨床歯科医学 (大綱化した科目名を記載)

専門科目2.

一般目標: 歯科医療における診療補助の能力を養うために歯科医療の概要と基礎的な理論と技術を理解する。

学習方法: 講義・演習・実習

教育時期: 1年後期または2年前期

教育単位と時間:

歯科保存学 1単位 30時間

歯周病学 1単位 30時間

歯科補綴学 1単位 30時間

口腔外科学 1単位 30時間

小児歯科学 1単位 30時間

矯正歯科学 1単位 30時間

高齢者歯科学・障害者歯科学 1単位 30時間

歯科放射線学・臨床検査学 1単位 45時間

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
歯・歯髄疾患	保存治療の種類 口腔診査 保存修復治療	対象となる疾患 問診 現症の診査 硬組織疾患の種類と病態 齲蝕の病態 窩洞の分類と名称 支台歯形態 ラバーダム防湿	1年後期	30時間	

歯周疾患	歯周治療	歯間分離 歯肉排除（圧排） 隔壁法 歯の切削法 齶窩・病的歯質の除去 歯髄保護 コンポジットレジン修復 セメント修復 インレー修復 ベニア修復 合着・接着用セメント 漂白法			
		象牙質知覚過敏症 歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状 歯髄の保存療法 歯髄の除去療法 根管治療・根管充填 外科的歯内療法 歯の外傷 再植・移植	歯周疾患の分類 歯周疾患の原因	1年前期	30時間

		<p>歯周医学 歯周疾患の診査 スケーリング・ルートプレーニング 歯周基本治療 薬物療法 歯周外科治療 根分岐部病変の治療 歯周・歯内病変の治療 咬合調整 歯の固定 メインテナンス 歯周再生治療</p>		
--	--	---	--	--

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
咀嚼障害・咬合異常	補綴歯科治療の基礎知識 補綴装置の種類とその構造 補綴歯科治療に用いられる器材 補綴歯科治療における歯科技工	歯列弓の形態とその対合関係 補綴歯科治療で重要な基準平面 頸口腔系の機能 咬合様式と頸運動 歯の欠損に伴う口腔内の変化 頸関節とその異常  固定性補綴装置（クラウン・ブリッジ） 可撤性補綴装置（有床義歯） インプラント治療  切削・研磨用の器材 印象採得用の器材 咬合採得用の器材 人工歯  クラウン・ブリッジの製作 有床義歯の製作 補綴装置の補修	1年後期	30時間	

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
口腔外科	先天異常と発育異常  損傷  口腔粘膜疾患  炎症  囊胞  腫瘍および腫瘍類似疾患  顎関節疾患	齒と口腔軟組織の異常 口唇・口蓋裂 顎変形症  齒の外傷、軟組織の損傷 齒槽骨骨折、顎骨骨折  潰瘍を主徴とする疾患 水疱形成を主徴とする疾患 紅斑・びらんを主徴とする疾患 白斑を主徴とする疾患 色素沈着、口腔乾燥  齒槽部の炎症 顎骨の炎症 顎骨周囲組織の炎症  顎骨に発生する囊胞 軟組織に発生する囊胞  良性腫瘍、腫瘍類似疾患 悪性腫瘍（口腔癌） 顎関節脱臼	2年前期	30時間	

		頸関節症 頸関節強直症		
	唾液腺疾患	化膿性唾液腺炎 流行性耳下腺炎 唾石症 唾液腺腫瘍		
	神経疾患	三叉神経痛 三叉神経麻痺 顔面神経麻痺 舌痛症 オーラルジスキネジア		
	血液疾患	鉄欠乏性貧血 白血病 血友病 特発性血小板減少性紫斑病		
	口腔外科の手術	消炎手術 止血処置 抜歯・埋伏歯拔歯 歯槽骨整形術 歯根尖切除術 嚢胞摘出術、嚢胞開窓手術		

		歯牙再植術・移植術 歯槽骨骨折手術、顎骨骨折手術 口腔インプラント手術		
歯科麻酔	局所麻酔	表面麻酔 浸潤麻酔 伝達麻酔 吸入鎮静法 静脈内鎮静法		
	精神鎮静法			
	全身麻醉	吸入麻酔 静脈麻酔 バイタルサイン 動脈血酸素飽和度		
	全身管理とモニタリング			
	歯科治療時の全身的偶発症	神経性ショック 過換気症候群 アナフィラキシーショック		
	救急蘇生法	一次救命処置 二次救命処置 AED の取り扱い		

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
小児歯科	小児歯科診療の基礎知識  小児歯科における診療体系  小児患者との対応法	発育段階と口腔の変化 心身の発育 小児の生理的特徴 歯の発育とその異常 齒列・咬合の発育と異常 小児の齲蝕 小児の歯周疾患 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患  診査 齒冠修復 齒内療法 外科的処置 外傷の処置 咬合誘導 リコール（定期診査）  診療室における小児の態度と行動 年齢別にみた小児の行動と対応法 治療時の対応法	2年前期	30時間	

矯正歯科	成長・発育	行動療法 鎮静・減痛下の対応法 前投薬法  頭蓋および顎顔面の成長・発育	2年前期	30時間	
	正常咬合と不正咬合	不正咬合の分類 不正咬合の原因			
	矯正歯科診断	検査 症例分析			
	歯科矯正と矯正力	歯の移動方法			
	矯正装置	可撤式装置 固定式装置 機能的顎矯正装置 上顎側方拡大装置 顎外固定装置 保定装置			

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
高齢者歯科	高齢者の特性	加齢と老化 人口の高齢化	2年前期	15時間	
	高齢者の口腔の特徴	全身疾患と口腔との関連 高齢者に多い口腔疾患			
	高齢者の歯科診療	バイタルサイン 摂食機能療法			臨床検査と 関連
	要介護高齢者への対応	口腔ケア チーム医療 訪問歯科保健指導			
障害者歯科	障害の概念	障害の分類 障害者を支える社会基盤	2年前期	15時間	
	障害の種類と歯科的特徴	精神遅滞 ダウン症候群 自閉症 脳性麻痺 筋ジストロフィー てんかん			

	障害者の歯科診療  障害児の歯科治療	重症心身障害  行動調整 服用薬 口腔保健管理  障害児への対応 小児の摂食・嚥下障害の特徴			
--	--------------------------	---	--	--	--

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
歯科放射線	放射線とは エックス線画像の形成 歯科におけるエックス線検査 写真処理と画像保管 放射線治療と口腔保健管理	放射線とその性質 放射線の人体への影響と防御 エックス線フィルムと増感紙 デジタル画像 口内法エックス線撮影 パノラマエックス線撮影 頭部エックス線規格写真 その他の画像検査法 エックス線写真の読み方 写真現像 フィルム保管 放射線治療による副作用 放射線治療患者の口腔保健管理	2年前期	30時間	実習も含む
臨床検査	臨床検査の目的	検査の種類 検査値の読み方 主な疾患・病態別検査値の捉え方	2年前期	15時間	

	生体検査	体温、脈拍、血圧、心電図、筋電図 摂食嚥下機能検査			
	検体検査	血液学的検査、血液凝固検査 生化学・免疫血清学的検査 細菌検査 病理学・分子生物学的検査			
	口腔領域の臨床検査	口臭検査 味覚検査 金属アレルギー検査 唾液検査			

**専門科目3.**

**科目名：歯科予防処置論** (大綱化した科目名を記載)

一般目標：人々の歯・口腔の健康に関する基礎を学び健康な生活を支援するために、プロフェッショナルケアの知識・技術・態度を習得する。

学習方法：**講義・演習・実習**

教育時期：1年前期～3年前期

教育単位と時間：8単位・270時間

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考・関連科目
歯科予防処置の考え方	1. 歯科予防処置の概念	1. 健康および疾病予防の概念 2. 第1次予防～第3次予防 3. 歯・口腔の予防法 4. 歯科予防処置の法的位置づけ 5. 歯科衛生士の行う歯科予防処置	1年前期	15時間 1単位	講義 口腔衛生学 歯科衛生士概論
基礎知識	1. 口腔の基礎知識	1. 正常な口腔 2. 歯と歯周組織 3. 口腔の機能 4. 歯冠と歯根	1年前期		講義
	2. う蝕と歯周疾患の基礎知識	1. 口腔の付着物・沈着物 2. プラークの形成過程・成分・分類 3. 歯石の形成過程・成分・分類 4. 歯周疾患の進行プロセス 5. 歯周疾患の予防法	1年前期		講義
	3. う蝕予防の基礎知識	1. う蝕の成り立ち	1年後期	60時間	講義

歯石除去実習		2. う蝕予防の臨床的効果 3. う蝕予防法の種類 4. う蝕予防法の選択		2 単位	
		4. う蝕活動性試験 1. 基礎知識 2. 評価方法の種類と特徴 3. う蝕活動性試験の分類 4. う蝕活動性試験の実際	1 年後期	講義 実習	
		5. フッ化物塗布 1. 基礎知識 2. 作用機序 3. 安全性 4. 術式の種類と方法	1 年後期	講義	
		6. フッ化物洗口法 1. 基礎知識 2. 作用機序 3. 洗口法の種類と方法	1 年後期	講義	
		7. 小窓裂溝填塞法 1. 基礎知識 2. 填塞材の種類と方法	1 年後期	講義	
		1. 口腔内の情報収集 1. 歯・口腔の診査 2. 齒肉の診査 3. 付着物・沈着物の検査 4. プロービング・エキスプロービング	2 年前期	90 時間 2 単位	実習

う蝕予防実習		5. 画像診査 6. 動搖検査 7. 口臭検査			
		2. 歯石除去基礎実習	1. インスツルメント 2. スケーラー基本操作 3. マニキン操作 4. ミラーテクニック	2年前期	実習
		3. 手用スケーラー模型実習	1. 鎌型スケーラー模型実習 2. キュレットスケーラー模型実習 3. シャープニング	2年前期	実習
		4. 相互実習基礎	1. 相互実習について 2. 感染予防・手指消毒方法 3. ヒヤリハット防止の対策と 対処方法	2年前期	実習
		5. 歯石除去相互実習	1. 鎌型スケーラー 2. キュレットスケーラー 3. 超音波スケーラー 4. エアースケーラー 5. 歯面清掃・歯面研磨（P T C） 6. P M T C	2年後期 90時間 2単位	実習
	1. フッ化物応用法	1. フッ化物歯面塗布法		1年後期	実習

総合演習	1. 事例検討	1. 小窩裂溝填塞 2. フッ化物洗口法	1年後期	15 時間 1 単位	実習 演習
	2. 小窩裂溝填塞法	1. 歯科衛生過程の進め方 2. アセスメント 3. 計画立案 4. 実施後の評価	3年前期		

- 留意事項： 1. 大項目の「歯科予防処置の考え方」「基礎知識」については、「歯・口腔の健康と予防に関わる人間の社会と仕組み」と連携をとる。
2. 中項目の事例検討の「歯科衛生過程の進め方」は、詳しくは歯科衛生土概論で学び、保健指導論で全身の情報収集（アセスメント）・医療面接・セルフケアを学び、全体の流れを学ぶ。歯科予防処置論では口腔内の情報収集（アセスメント）とプロフェッショナルケアにおける実施を理解することが望ましい。

科目名：歯科診療補助論（大綱化した科目名を記載）

専門科目4.

一般目標：さまざまなライフステージにおける高度歯科医療に対応するために、専門性の高い歯科診療補助業務の基礎的理論と技能、態度を理解する。

学習方法：講義・演習・実習

教育時期：1年前期～3年後期

教育単位と時間：9単位・390時間

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
歯科診療補助の考え方	歯科診療補助の基礎的理論  歯科診療補助業務の基礎知識  チアサイドの共同動作	歯科診療補助の意義 歯科診療補助の法的位置づけ 歯科衛生士の行う歯科医行為 チーム医療の基礎 歯科診療補助の流れ 治療時における患者への対応 服薬指導 歯科診療室の管理 医薬品・歯科材料の管理 共同動作の基本 術者・補助者・患者のポジショニング 器具の受け渡し バキュームテクニック ラバーダム防湿	1年前期	75時間 (2単位) 講義 30 実習 45	講義 歯科衛生士概論  講義、演習
医療安全と感染予防の考え方	医療事故  感染予防	リスクマネジメント 医療安全と感染予防の意義 スタンダードプリコーション ハイリスク患者の器材の取り扱い	1年後期	45時間 (1単位)	実習 臨床歯科医学 臨床実習  講義 講義、演習 臨床実習・臨地実習

		偶発事故の防止と対応 ヒヤリハット 洗浄・消毒・滅菌の定義 洗浄法 消毒法 滅菌法 手指消毒 診療室での管理システム			講義、実習
		医療廃棄物の定義 歯科診療室で発生する廃棄物			講義、演習
歯科材料の取り扱い実習	歯科材料の基礎知識 各種印象材の取り扱いと管理法	分類 基本的性質 印象材 模型用材料 合着材および接着材 成形歯冠修復材 仮封材 ワックス 種類 取り扱い	1年後期	45時間 (1単位)	講義 実習 臨床実習
	歯肉排除薬剤〔歯肉圧排薬材〕				実習
歯科医療における歯科衛生士の役割	治療時の補助業務の考え方 各治療の診療補助	診療の補助と診療の介助の違い 保存治療 補綴治療 口腔外科治療 小児歯科治療	2年前期	90時間 (2単位)	講義、実習 臨床歯科医学 臨床実習

臨床検査法実習	生体検査	矯正歯科治療 高齢者歯科治療 診療における偶発事故 安全と防護 撮影時・撮影後の患者への説明 フィルムのセッティング 各種装置 口内法撮影 口外法撮影 フィルムの現像と管理	2年後期	45時間 (1単位)	演習  実習 臨床歯科医学 臨地実習 実習
		体温・脈拍・血圧 心電図、筋電図 摂食嚥下機能検査 血液学的検査 血液凝固検査 生化学・免疫血清学的検査 細菌検査 病理学・分子生物学的検査			
		口臭検査 味覚検査 金属アレルギー検査 唾液検査			
救急処置実習と心肺蘇生法実習	口腔領域の臨床検査		2年後期	45時間 (1単位)	実習
	救急処置	バイタルサインの把握 モニタリング			
	心肺蘇生法	一次救命処置			演習、実習

介護技術の基本実習	その他の処置	二次救命処置 静脈路の確保 神経性ショックとその処置 過換気症候群とその処置 アナフィラキシーショックとその処置	3年通年	45時間 (1単位)	演習  演習、実習 臨地実習
	介護の基礎	援助的コミュニケーション 歩行の介護 移乗・移動の介護 体位・姿勢変換の介護 食事の支援 身体の清掃 衣類着脱の介護 排泄の介護			

・ 留意事項

- 「歯科医療における歯科衛生士の役割」、「臨床検査法実習」、「救急処置実習と心肺蘇生法実習」などは臨床歯科医学の講義と連携をとっておこなう。  
この他にも、大項目に対する関連科目を備考に記載した。
- 「介護技術の基本実習」はそれぞれの項目において歯科衛生業務を実践する上で必要となる演習や実習を中心に考え、臨地実習(臨床実習含む)と連携をとり技能、態度の修得に役立てる。

科目名：歯科保健指導論（大綱化した科目名を記載）

専門科目5.

一般目標：健康支援として、人々の歯・口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な知識・技術・態度を習得する。

学習方法：講義・演習・実習

教育時期：1年前期～3年前期

教育単位と時間：7単位 210時間

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
保健指導の考え方	保健指導の概念  生活行動	保健指導の目的  ヘルスプロモーション  歯科保健情報と収集方法  普及活動および評価  生活習慣・ライフスタイル  保健行動  行動変容  セルフケア  食生活	1年前期	30	プライマリーヘルスケア、ノーマライゼイションを含む
保健指導の基礎知識	歯・口腔および全身状態の把握  対象把握	全身的な健康状態  口腔の観察  口腔の清掃状態と口腔清掃自立度  口腔機能  パーソナリティ  日常の生活習慣行動  生活環境  日常生活の自立度			
保健指導の基礎技能	歯科保健に関する調査	調査の種類			

	伝達法 歯科衛生士業務記録	質問調査票 コミュニケーション能力 対話法 媒体の利用法 基礎情報とアセスメント 指導計画・経過観察 評価・報告 口腔清掃用具の種類と選択 化学的清掃剤の種類と選択 口腔清掃法 口腔清掃法の指導（ブラッシング法、歯間部清掃用具の使い方、歯磨剤・洗口剤の使い方、矯正装置装着者・補綴物装着者への指導） 義歯の清掃と保存管理 口腔清掃状態の評価（インデックス）		
口腔清掃法	基礎知識			
口腔清掃演習・実習	基礎技能	使用法・管理法 口腔清掃法の術式 自分の口腔清掃状態の把握と評価	1年後期	4 5
対象別指導法の基礎知識	ライフステージ・状態別指導法の要点	妊娠婦 乳児期 幼児期 学齢期		

食事指導法	基礎知識	青年期 成人期 老年期 全身疾患のある有病者 要介護高齢者 心身障がい者 介護・福祉施設の利用者・入居者	2年前期	4 5	栄養学と関連
相互実習	食生活指導の要点	食生活指針・食事バランスガイド 齲歯誘発性を持つ食品 栄養と歯科保健の関係 咀嚼と食品の性状 摂食・嚥下 食習慣の把握・改善 甘味嗜好の改善			
	保健指導：情報収集	パーソナリティ 生活習慣			
	保健指導：口腔清掃	状態把握と歯科衛生診断 歯科衛生計画・実施・評価			
	保健指導：食生活習慣	食生活習慣の把握と歯科衛生診断 甘味嗜好改善のための歯科衛生計画			

集団指導法  学校・事業所等における歯科保健教育活動：  演習	現場活動の基礎知識  保健所、市町村保健センター  保育所、幼稚園  学校  事業所  教育媒体の作成  歯科保健教育	歯科保健活動における歯科衛生士の役割 活動分野 指導方針 地域特性 母子保健法、高齢者の医療の確保に関する法律 児童福祉制度、学校保健法との関係 学校教育法、学校保健法との関係 歯科保健教育と保管管理 労働安全衛生法等との関係 各種媒体の作成 幼児・園児への歯科保健教育 保護者への口腔保健教育 保育士、教員等への支援 児童・生徒への歯科保健教育 教員、校内研修等への支援 事業所における歯科保健教育	2年後期	60	衛生行政と関連
		高齢者の医療の確保に関する法律等、介護保険制度との関係 介護・社会福祉施設の理解 居宅環境の把握、対象把握 病態の把握 口腔ケア	3年前期	30	

		食事の介助 家族、介護者への支援 感染防止対策 利用者、入所者の把握 口腔ケア 食事の介助 施設職員、介護者、家族への支援 感染防止対策 口腔機能の種類 評価法 訓練法 口腔ケアの基本技術 対象把握と機能評価 口腔機能訓練		
演習	介護・社会福祉施設  口腔機能訓練の基礎知識  介護・福祉の現場における口腔ケア			

備考： 口腔衛生学、衛生行政、栄養学等との関連に配慮する

**専門科目6.**

科目名：臨地実習(臨床実習含む)（大綱化した科目名を記載）

一般目標：既習の知識・技能を実践と結びつけながら業務の理解を深め、実践能力を養うために、歯科臨床、地域歯科保健等の場で実習する。

学習方法：講義・演習・実習

教育時期：1年後期、2年後期～3年前期

教育単位と時間：20単位・900時間

大項目	中項目	小項目	教育時期	時間数	備考
臨床・臨地基礎実習	病院又は診療所 臨地実習施設等		1年後期	45時間	*別記
臨床実習Ⅰ	病院又は診療所		2年後期	360時間	
臨床実習Ⅱ	病院又は診療所		3年前期	360時間	
臨地実習Ⅰ	保健所又は地域保健センター 企業 保育所、認定こども園、幼稚園 小・中・高等学校 支援学校又は支援学級 地域活動		2年後期 ～ 3年前期	135時間	
臨地実習Ⅱ	社会福祉施設 介護老人保健施設 介護老人福祉施設 在宅訪問		2年後期 ～ 3年前期		

備考：1年後期の臨地（臨床）基礎実習については、別記を参照

臨地実習は、地域の特性を考慮したプログラムを作成すること。また、ライフステージを配慮した実習をプログラムすることが望ましい。  
表参照

大項目	中項目	小項目	備考
1. 対人関係	1)コミュニケーション  2)チームワーク	(1)患者との関係 (2)スタッフとの関係 (3)歯科医師(医師)との関係 (4)会話技法 (5)応接法とマナー  (1)診療室のルール (2)患者への対応 (3)カンファレンス (4)スタッフ間の連携 (5)他医療職種との連携	子ども, 老人, 障害者  患者誘導  ミーティング POS 情報交換 業務の分担 業務記録
2. 診療室の管理	1)医療安全管理システム  2)感染防止対策  3)機器・器材の管理	(1)安全管理システム (2)ヒヤリ・ハット (3)医療事故  (1)消毒と滅菌法 (2)機器・器具の取り扱い (3)手指消毒 (4)バイオハザート  (1)診療室の管理システム (2)器具の名称・呼称 (3)機器の取り扱いと管理 (4)器具・器材の取り扱いと管理 (5)薬品の取り扱いと管理	診療室のソフト・ハード 事故報告含む 偶発事故  始業, 終業点検  始業点検 シャープニング

*3. 歯科衛生業務	1)コンサルテーション	(1)歯科相談 (2)セカンドオピニヨン等	
	2)スクリーニングと健康検査	(1)検査とモニタリング (2)口腔のリスク検査 (3)口腔の健康検査 (4)検査と記録法	バイタルサイン, 口腔機能検査
	3)検査結果と口腔状況の説明と理解	(1)検査結果と口腔状況の説明 (2)インフォームドコンセント	歯科治療の内容
	4)口腔清掃指導と日常の健康管理	(1)清掃用具の使い方指導 (2)ライフステージ別の口腔清掃指導 (3)ライフステージ別の日常の健康管理指導 (4)特殊治療後の口腔清掃と維持管理指導	OP 後の指導, 義歯の着脱指インプラント装着者の指導等
	5)食生活(栄養)指導	(1)食生活指導 (フードバランスガイド) (2)栄養と料理(選び方) (3)病態と栄養指導 (4)う蝕になりにくい食品 (5)健康食品 (6)摂食嚥下指導の介助	食育  * 臨地実習との関係を配慮
	6)予防技術 [う蝕と歯周病予防に対する専門処置]	(1)専門検査(診査) (2)PTC (3)フッ化物の応用 (4)予防填塞 (5)フッ化ジアンミン銀の応用 (6)SRP	プロービング, エキスプローリング等 洗口法含む  浸潤麻酔, 超音波・エアスクーラー

		(7)イリゲーション (8)薬剤の応用と処置 (9)SPT (10)処置後の健康の維持増進のための定期的検査	等を含む
	7) 臨床技術 [チェアサイドの共同動作]	(1)治療時の共同動作 *仮封・仮着（合着） *咬合採得 *調整・試適 *除去・撤去 *洗浄・貼薬 *吸引 (2)ラバーダム防湿法 (3)印象採得 (4)ホームケアのホワイトニングの指導 (5)診療後の口腔状況の説明と腔清掃、健康管理指導	パスワーク・セメント練和等 吸引支管、バキューム等
	8) エックス線撮影の補助	(1)安全と防護（被爆） (2)撮影時の患者への説明とフィルムのセッティング (3)照射時間の設定 (4)撮影後の患者への説明 (4)フィルム処理	フィルムバッヂ フィルムの種類
	9) 介護技術	(1)口腔機能の改善訓練 (2)専門的口腔ケア (3)器管内吸引	*臨地実習との関係を配慮 *見学

	10)服薬指導  11)その他	(1)投薬の種類 (2)投与法の確認と説明  (1)業務記録 (3)臨床検査 (4)救急処置 (5)心肺蘇生法	*臨地実習との関係を配慮 処方箋  業務記録の書き方, POS  AED
--	-----------------------	---	---

### 3. 歯科衛生業務について

歯科衛生業務については、できるだけ見学、実習できるように配慮し、実習内容の例(ケース)数を、実習記録として記させることが望ましい。

- ① 中項目1)～3)については、10例以上の見学や実習ができるようにする。
- ② 中項目4)～5)については、10例以上の実習を行う。
- ③ 中項目6)予防技術については、できるだけ実習ができるように配慮する。10人以上の患者について行うことが望ましい。
- ④ 中項目7)～8)については、30例以上の実習を行う。
- ⑤ 中項目9)～10)については、臨地実習で見学や実習ができる配慮することが望ましい。

#### \*実習での留意事項

- ① 実習は原則として昼間に行うこと。
- ② 実習項目については、できるだけ見学・実習ができるように配慮すること。

ライフステージ別の臨地実習について（参照）

ライフステージ	実習施設	実習内容
胎児期（妊婦）	市町村センター、保健所 病院	妊婦歯科健診、両親学級等での健康教育、健康相談、歯科保健教育
乳・幼児期	市町村センター、保健所 保育所、幼稚園、認定子ども園	乳児健康診査、育児相談、1歳6ヶ月児健康診査、3歳児健康診査等、 健康後の健康教育、健康相談、保育所、幼稚園での歯科保健教育、保育体験
学齢期	小学校	健康診断（歯科健診）、歯科保健教育
青年期	中学校、高等学校	健康診断（歯科健診）、歯科保健教育
成人期	市町村 事業所（企業）	特定健康診査、特定保健指導、一般健康診査（歯周疾患検査）等 検査後の健康教育、健康相談、事業所での健康診査、 歯科保健教育（口腔の健康管理）
老年期	市町村、通所介護のサービスセンター、老人保健・福祉施設等 在宅訪問	特定高齢者健康診査、健康教育、健康相談、地域支援事業（口腔機能の向上） 施設等での歯科健康診査、食事の介助、口腔清掃（口腔の健康管理） 在宅訪問（歯科保健指導、歯科診療）など
障害者への支援	特別支援学校、口腔保健センター、障害者福祉施設（身体・認知・精神障害等）等	特別支援学校での歯科保健指導、 障害者への歯科診療、健康教育、口腔の健康管理